秋津公民館主催講座

「おもしろ 秋津（あさひば）学」（入門編）

令和４年
10月21日・11月４日

【はじめに】

「あさひば」の地域には、約32,000人（約14,000世帯）が住み、住宅街の中にも豊かな自然が残り、たくさんの史跡・文化財がありとても素敵な地域です。

平成14年３月に『ふるさと秋津（あさひば）の歴史　文化財・伝承・地名』（全118ページ）としてまとめられた、地域の魅力満載の冊子があります。この講座は、この冊子から多くを引用しています。

あさひばの魅力を多くの方に知っていただきたいとこの講座を企画しました。

※ あさひば ・・・秋津（あきつ）の「あ」　／　桜木（さくらぎ）の「さ」
桜木東（さくらぎひがし）の「ひ」　／　若葉（わかば）の「ば」
秋津公民館管内の愛称として、平成13年（2001年）から使用されています。

【日 程】

1. 10月21日（金）

①「地形」・・・秋津小学校南側は、海だった!?

②「地名」・・・秋津の由来、残る「字（あざ）名」「呼び名」

③「水」・・・「お地蔵さま」と「水神さま」、秋津の水田、飲料水

2. 11月４日（金）

④熊本市東部の発展と戦争遺産（光と影）

⑤「横井小楠」・・・『送別の語』、人権、民主主義、世界平和

⑥「環境」・・・ホタルの舞う自然環境が残る住宅街「秋津」

⑦その他・・・伝説、史伝、人物

月　日（　）日直

秋津公民館主催講座　　令和４年

「おもしろ 秋津（あさひば）学」（入門編）　　10月21日・11月4日

①「地形」・・・秋津小学校南側は、海だった！？

1.「沼山津貝塚」（秋津公民館・旧浄化センター周辺）

縄文時代（約 5000 年前）（「縄文海進」）、現在の秋津小学校南側の田畑辺りまで海。

※海抜約5m。熊本平野。「地理院地図（電子国土Web）」**地理院地図 / GSI Maps｜国土地理院**

2.「貝原（きゃあばる）」という字名　　※「あさひば字マップ」参照（秋津公民館ホームページ掲載）

沼山津貝塚（マップ3）※以後、番号は冊子記載の番号ではなく、「あさひば史跡・文化財マップ」の番号

貝塚の南面には秋津川が流れ、水面からの高さは2㍍余である。

貝塚の標高は約5.5㍍で、現在の海岸線（有明海）とは15.5㌔隔たり、典型的な縄文海進期の貝塚である。当貝塚は昔から「貝原（きゃあばる）」との字名で「此の地一二尺を掘れば貝殻を出さざるなし。蓋し往時この辺一帯入海なりしならんか」と云われ、又昭和5年（1930）秋津小学校南側の畑を切り下げ、耕地整理中に無数の石斧が出たことが知られている。

※マップ 60 「耕地整理記念碑」

このように昭和初年から存在が知られていたが、その後所在は忘れられていた。

昭和43年（1968）秋津浄化センターの貯水槽拡張工事に伴う事前調査により、一部発掘が行われ、縄文中期より後期前半までを主体とする遺跡であることが確認され、10歳くらいの埋葬された小児人骨も発掘された（北枕、西向き屈葬、上に石）。なお貝塚は同42年客土によって覆土され、全貌を知ることは出来ない。

自然遺物はハマグリが主体で、カキ及びヤマトシジミがそれに次ぎ、若干のバイガイと獣片を見た。

主な出土品は次の通り

出土土器　「阿高（あだか）式・並木式・南福寺式・出水式・御手洗A式・鐘ケ崎式・北久根山式」など縄文中期初頭から晩期初頭の阿高式系や鐘ケ崎式系の縄文土器

土製品　土錘（石のおもり）

石器　石鏃（やじり）・石匙（石のナイフ）・磨石（木の実などをすりつぶす石）・

石皿・凹石

骨角器　骨製のヘラ

周辺の阿高式系の土器を出す遺跡としては熊本市江津湖遺跡（※マップ4「江津湖遺跡群」・熊高敷地内・下益城郡城南町阿高貝塚などを挙げることができる。また、縄文後期前半の鐘ケ崎式土器を伴う周辺の貝塚には上益城郡嘉島町カキワラ貝塚、同郡御船町甘木貝塚などがあり、縄文海進の線をたどる貴重な遺跡とみてよい。

（日本歴史地名体系　熊本県の地名・熊本市東部文化財調査報告書）

※「熊本市地図情報サービス」「埋蔵文化財」 https://www.sonicweb-asp.jp/kumamoto/

※御領貝塚 https://kumamoto-guide.jp/spots/detail/192

※御船町甘木貝塚？

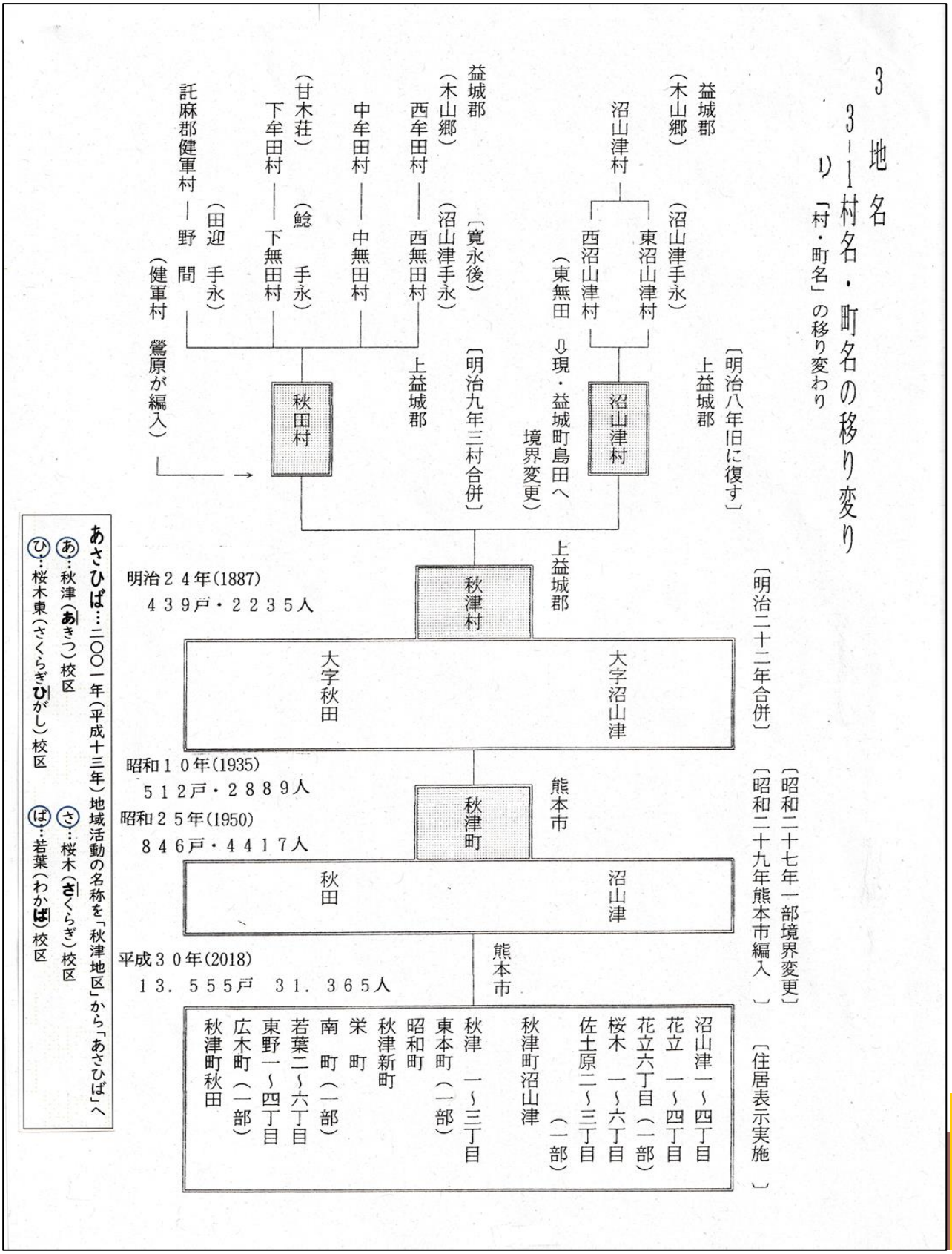
秋津公民館主催講座　　令和４年

「おもしろ 秋津（あさひば）学」（入門編）　　10月21日・11月4日

②「地名」

※「あさひば」

1.「秋津」の成り立ち・村名の変遷 （ 秋田村 ＋ 沼山津村 ＝ 秋津村 ）　　※字図



秋津公民館主催講座
「おもしろ 秋津（あさひば）学」（入門編）

令和４年
10月21日・11月４日

沼山津・・・ 地名の沼山は湿地の林または野林の意と思われ、これに舟着場を指す津が付いたものと考えられるが未詳。

沼山津村〔近世〕・・・江戸期の村名。中古は木山郷に属し、寛永10年（1633）沼山津手永に属す。明治四年（1871）手永が郷に改められる。 本村は元々一村であったが、文化8年（1811）の沼山津手永鑑では、東沼山津村と西沼山津村に分かれ、それぞれに庄屋が置かれていた

沼山津村 〔近代〕・・・明治8～22年の村名。東沼山津村と西沼山津村が合併して成立。明治22年秋津村の大字となる。

沼山津〔近代〕・・・明治22年～昭和29年の秋津村の大字名。 昭和29年熊本市秋津町沼山津となる。

沼山津〔近代〕・・・昭和29年～熊本市の町名。秋津町を冠称。 昭和30年以降、熊本市の東部発展に伴い漸次開発が進む。一部が昭和41年東野1～4丁目、同45年花立1～4丁目・桜木1～3丁目・沼山津1～3丁目となり、その後数次の住居表示の実施を経て現在の町名町界となる。

秋田村〔近代〕・・・明治10～22年の村名。 上益城郡のうち。中無田村・西無田村・下無田村と託麻郡健軍村のうち野間が合併して成立。同22年秋津村の大字となる。中古元西牟田村・中牟田村は木山郷、元下牟田村は甘木荘に属し、寛永10年（1633）西牟田村・中牟田村は沼山津手永に、下牟田村は鯰手永に属す。明治4年（1871）手永が郷に改められる。同8年（1875）下牟田村を沼山津郷に編入す。3村とも寛永後「牟田」の字を「無田」に用いる。

秋田〔近代〕・・・明治22年～昭和29年の秋津村の大字名。 昭和29年熊本市秋津町秋田となる。

秋田〔近代〕・・・昭和29年～熊本市の町名。秋津町を冠称。熊本市の東部発展に伴い、漸次開発が進む。一部が昭和31年栄町・東本町・南町・若葉町、同34年秋津新町・昭和町、東原町・同41年東野1～4丁目・同48年若葉1～6丁目・広木町となり，その後数次の住居表示の実施を経て現在の町名町界となる。

秋津村 〔近代〕明治22年～昭和29年の村名。沼山津村と秋田村が合併して成立。旧村名を継承した二大字を編成。村名は、秋田の「秋」と沼山津の「津」をとり、日本の古名「あきつしま」になぞらえて命名されたと言う。昭和29年熊本市の一部となり、村制時の2大字は秋津町を冠称。同市の町名に継承。（角川日本地名大辞典 43熊本県）

秋津公民館主催講座

「おもしろ 秋津（あさひば）学」（入門編）

令和４年
10月21日・11月４日

1－1）東野中学校 校名の由来と周辺の町名

昭和37年（1962）に東野中学校が開校した。この校名は、万葉歌人「柿本人麻呂」の「東の野にかぎろいの立つ見えて かへり見すれば月傾きぬ」〔笠間書院発行 橋本達雄（編）の 柿本人麻呂（全）による〕の「東の野」から採り、当時の中満清人熊本市教育長が命名された。

西は健軍地区の発展にともない、暫次住宅化のきざしがみえはじめていたが、東や南は広々とした畑地や水田が飯田山麓まで続く風景が、この歌からのイメージと重なったものか。

開校4年後、中学校周辺の町名が従来からの村名や字名とのゆかりではなく校名から採られた。

2. 秋津第二土地区画整理　※昭和 39 年～昭和 59 年（冊子「くまもと・あきつの区画整理」）

3. 圃場整備事業　※昭和 55 年～平成 6 年

1975/05/21(昭 50)

https://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do?specificationId=329218

2016/07/22(平 28)

https://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do?specificationId=1692804

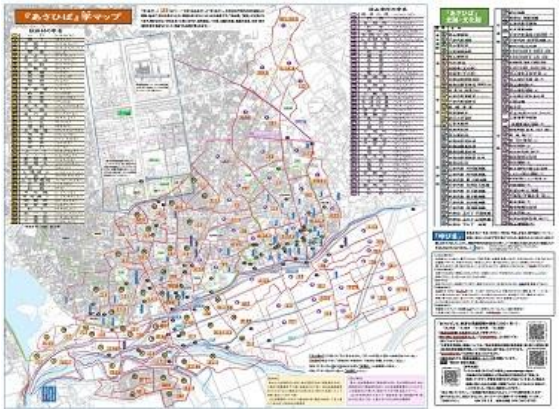
秋津公民館主催講座
「おもしろ 秋津（あさひば）学」（入門編）

令和４年
10月21日・11月４日

4.「字（あざ）」

※「あさひば字マップ」ホームページ

あさひば史跡・文化財・字マップ（PDF）（**3.04MB**）



1）沼山津村・・・44の字、 秋田村・・・46の字

2）公園、バス停、田の所在地などに残る字名

◆公園に残る字名…鶯原（うぐいすばる）→うぐいす原公園（花立２丁目）、古屋敷（ふるやしき）→秋津古屋敷東・南・北公園（秋津レークタウン内）、水溜（みずたまり）→水玉公園、間島（ましま）→秋津間島前まちの広場、横畠（よこはた）→横畑公園、古閑前（こがのまえ）→桜木東こが前公園 など

◆住所やバス停、学校名に残る字名…花立、桜木、佐土原、古閑など

◆田の所在地　※県営秋津地区換地図

3）字名の分類

	秋　田　村	沼　山　津　村
地形地名 （自然地名）	鶯原・北原・東原・中原・西原・杉下・中須・穴無田・鳥飼・鷺場・佐分浦・水溜・南水溜・計路・野間原・間島	鶯原・佐土原・貝原・萩原・西原・上古閑久保・古閑久保・古閑前・花立・北花立・桜木・筒井久保・筒井田・西無田・東無田・小無田・竹の内・杉本・水溜・計路
開拓地名	堀割・一の口・南一の口・出口・一番割・二番割 ・上ノ 丁・下ノ丁・棚田・北境塚・境塚・西六反・六反・碩下・ 間島前・塘下・井寺鶴・井寺道下・上横道上・上道上・月の輪	堀切・堀の口・火口・長田・横畠・境峠・戸井手・保手本・上内・下内・橋本・橋口・上津代里・中津代里・下津代里
社会地名	宅地・居屋敷・古屋敷・三官屋敷前	天神木
宗教地名		兵糧田・寺田・図志分・名守・大城町・奥分

秋津公民館主催講座
「おもしろ 秋津（あさひば）学」（入門編）

令和４年
10月21日・11月４日

4）呼び名

地名には、「字名」の下に「下名（さげな）・呼び名・門名」がある。
坂や堀の一つ一つに畑１枚にいたるまで呼び名が付けられ、地元の人々に古くから伝わり親しまれている。しかしこれら「呼び名」も環境の変化等に伴い、いつのまにか忘れられたり消滅してしまうものも少なくない。秋津地区に残っている呼名には次の様なものがあり、人々の営みぶり等を如実に表している。（調査・平成五年度郷土史講座生　沼山津地区　水上則弘・中無田地区　小田邦秀・西無田地区　矢田　剛）

※以下、「あさひば字（あざ）マップ」にわかる範囲で記載しています。

上沼山津地区

会所跡（かいしょあと）・裏門（うらもん）・門前（門前）・仕事場・舟場（ふなば）・外村（ほかむら）・中竹（なかたけ）・出屋敷（でやしき）・川端（かわばた）・新道（しんみち）・標ノ木（しめのき）・東小路（ひがししゅうじ）・堂ノ前（どおんまい）・上ノ寺（かみのてら）・馬神さん（うまがみさん）・五百間（ごひゃくけん）・やげん堀（やげんぼり）

下沼山津地区

貝原（きゃあばる）・野林山（のばしのやま）・小無田（こむた）　・中小路（なかしゅうじ）・西小路（にししゅうじ）・洲崎（すさき）　・下ノ寺（しものてら）　・たんたん落し　・屋敷田

桜木地区

追分（おいわけ）・五郎堀（ごろうぼり）・東脇（ひがしわき）・宮ノ前（みやんまえ）・花立往還・　堂面（どうめん）

中無田地区

えづ原（えづばる）・やんぼし塚・くぼ　・うっぽげ　・西のちょうもん・中通（なかどうり）・上ノ小路（かみのしゅじ）・中道（なかみち）・下ノ小路（しもんしゅうじ）・出小屋（でごや）・横道（よこみち）・野間ノ原（のまんはる）・出口（でぐち）・水溜（みずたまり）・上ノ川入場（かみのかわいれば）・下ノ川入場（しもんかわいれば）・新道端（しんみちばた）・さわら　・一丁八反　・堀割

西無田地区

神屋敷（かみやしき）・新屋敷（しんやしき）・水神さん（すいじんさん）・鬼塚〔御見塚）・二方塚（にほうづか）・かわたて　・すいじんぼり　・江津湖んはた　・うらいでんはた

秋津公民館主催講座　　令和４年

「おもしろ 秋津（あさひば）学」（入門編）　　10月21日・11月４日

5）地名考察

天神木（てんじんぎ）　沼山津の字番号（字図）18番の字名。　ここには社も鳥居も無くただ住宅に囲まれた畑の中に，天神塚という直径1.5メートルほどの塚がポツンとあるだけである。もとは大きかったが次第に削られて畑になってしまい、持主は早く削って宅地か畑にしたいが、代々触れば祟ると言われ残していると言う。『上益城郡誌』に「秋津小学校敷地の字名なり。往古天神丸と言う船入航して此の地の樹に繋ぎしより起こると」とあり、地名を船名に由来させている。

しかし触れば祟るとの言い伝えのなかに古い天神信仰がうかがわれる。　　（松野國策）

三官(さんくわん)屋敷前(やしきまえ)　　秋田の字番号 36番の字名

『上益城郡誌』（※大正９年）には次のように記されている。「秋津村計路川の北岸所謂無田中の一小字也。該地方その他中無田村の屋敷跡何々の屋敷と唱ふ地あるより推すときは此地現今は無田地として到底屋敷とすることは能はざるも、或時は家宅を構えしことありしを想像し得べし。

往時海底は変じて陸地となるや東部山中の諸川は無田の低部を貫流し従って貝原地方の住民は南進して其の川岸近く進み、加藤公入国して治水事業に熱中され木山川流域を北に、屋形川は南より当地方に引落し、西方江津に築堤し緑川を御船川に合わせたるより俄に氾濫の害を受くるに至り、一朝増水して此地方は忽ち湖観を呈し農民をして辛苦を水泡に帰せしむること往々あり。殊に其の後川尻大麻塘の築工は惨禍を一層甚しからしむるに至り，全部屋敷を挙げて転居するに至れり。

中無田村の今の地に移りしは天和年間（1681～1683）なりと言えば新村・東無田等の部落も相先後して転居し、慶長（1596～1614）の頃迄は四五百年此の地に屋敷を有せしものの如し。

秋津村　三官氏塚　中無田村三藤氏の屋敷内にありしを百年前墓地に移す。」 中国では、「三官」は三男のこととか。三官屋敷は三男が管理していた中国貿易の支社的な屋敷か？　何れにしろ、江津塘築築堤後の天和年間（1681～1683）に 集落こぞって移住した中無田の旧宅地であった。

古屋敷（ふるやしき）　　秋田の字番号 42番の字名

中無田や東無田と相前後して集落こぞって移住した下無田（六嘉村の一部であった）の旧宅地跡で、名称で昔の名残りを水田の中にとどめている。転住先の集落を「新村又は上り（あがり）無田」と呼ばれていた。現在の秋津新町はこの「新村」に繋がる町名では。

計路（けろ）　沼山津の字番号 44番の字名　　秋田の字番号　38番の字名

数百年来荒れに荒れていた所を文化6・7年（1809・1810）に田開きがなされ、それを感謝して天保6年（1835）に中無田石塔水神が建立されているが、その碑文に「そもそも　きょろ　と申し来たり……　」と記されている。「きょろ　きょろ」と川筋が雨の度に変わる、流路移動を行うところからきているのか。

秋津公民館主催講座　　令和４年

「おもしろ 秋津（あさひば）学」（入門編）　　10月21日・11月４日

筏場（いかだば）秋田の字番号　11番の字名

直径20㌢、長さ約3㍍の丸太を5・6本のかづらで組み合わせ作ったものを筏と言っていた。明治の後期（1900～1910）頃までは、この筏を利用して、往来していたと伝えられており、当時の住民にとっては重要な水上の交通機関の一つでもあった。

筏は西無田集落の西側につけていたが、この筏のつく周辺の田んぼを筏のつく場所ということで「筏場」と名付けた。現在もその名は水田の一画に存在している。

屋敷田（やしきた）（別名1丁8反とも云う）　下沼山津の呼び名

中無田や下無田（新村）と相前後して集落こぞって転居した東無田の旧宅地跡で、名称で昔の名残りを水田の中にとどめている。

神屋敷（又は宮屋敷）　　西無田の呼び名

西無田の東北隅、現在の矢田氏方の東方、浮島熊野神社の神霊を分祀して西無田雨宮神社が創建された所。後年遷宮されて現在地に鎮座していることから、創建地を神屋敷又は宮屋敷と呼んでいる。

会所跡　　上沼山津の呼び名

熊本藩では地方（じかた）の行政区画として郡と村の中間に手永が置かれ、手永の長を「惣庄屋」と云い、手永の役所を会所と称した。沼山津には、寛永10年から寛政10年（1633～1798）まで、又天保14年から明治3年（1843～1870）の廃止まで前後193年沼山津手永の会所が置かれていた。明治3年会所廃止以降に呼び始めた呼び名であろう。

裏門・門前・仕事場　上沼山津の呼び名

会所の施設に関係するそれぞれの呼び名であろう。

上ノ寺（かみのてら）　　上沼山津の呼び名

上津代里の光輪寺のことを「沼山津の上の寺」と呼んでいた。

下ノ寺（しものてら）　　下沼山津の呼び名

下津代里の浄福寺のことを「沼山津の下の寺」と呼んでいた。

標ノ木（しめのき）　　上沼山津の呼び名

沼山津と広崎境界付近を標ノ木と言っていた。道祖神などの境界神を祀ったり、しめ縄を張って道切りをしたりする村人の意識の中の村境即ち生活空間としての村の内と外の境界地名としてとりあげられている。（熊本の民俗地名－ムラの内と外－大塚正文）

秋津公民館主催講座
「おもしろ 秋津（あさひば）学」（入門編）

令和４年
10月21日・11月４日

託麻塘（現在の江津塘）

西無田集落より約千㍍西方地点に託麻塘（現在の江津塘）と呼ぶ堤防がある。この堤防は加藤清正が築いたもので、上益城郡と飽託郡との境界の塘ということから、当時の人々は託麻塘と呼んでいた。

御見塚（通称鬼塚）

西無田集落の西方に御見塚（通称鬼塚）と言う小高い塚がある。託麻塘（現在の江津塘）の堤防工事の際、その状況をこの鬼塚より清正公が眺望になったと云う伝説があって今なおその名は人々の間で使われている。　　（語りべ学習会　←※この冊子を作られたメンバー）

③「水」

1.水との闘い・恩恵　～ 水神様が7カ所、お地蔵様が17カ所も！～　　※地図で確認

⇒ なぜ、この地区には多いのでしょうか？

1）江津塘　※航空写真 **1947/05/09(昭22)** https://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do?specificationId=687343

2）水田の比較／圃場整備前後（昭和50年・平成28年）・・・「クリーク」

3）「秋津地区の水田」

「秋津 年表（神社・地蔵・水神・災害の歴史）」 https://www.city.kumamoto.jp/common/UploadFileDsp.aspx?c_id=5&id=11960&sub_id=301&fid=292144

昭和57年（1982年）7月31日　水が引いた直後
場所：字「塘下」　撮影：小田邦秀さん

昭和57年（1982年）7月31日　水が引いた直後
場所：字「塘下」　撮影：小田邦秀さん

秋津公民館主催講座
「おもしろ 秋津（あさひば）学」（入門編）

令和４年
10月21日・11月４日

昭和57年（1982年）7月25日
場所：中無田神社（左） 撮影：小田邦秀さん

昭和57年（1982年）7月25日
場所：中無田神社（右） 撮影：小田邦秀さん

※圃場整備完成以降（平成６年）は、このような大水害は起きていない。

「ふるさと探訪」（平成21年10月 秋津第3公民館主催）より　※印は今回挿入

(1) 現在の秋津川 木山川の流域の田地は、縄文時代 (紀元前 10,000 年～紀元前 400 年←※所説あり。この地域が海岸線であったのは、約 5000 年前の紀元前 3000 年頃の縄文前期から中期ごろか)まで有明海が湾入した所であった。それが年々上流から流れてくる土砂が堆積 して陸地となったと考えられる。その証拠として、貝塚の出土や、海に関係する地名 (貝原、洲崎、広崎、木崎、間島、島等)が今に至るまで残っている

(2)慶長 8～9 年 (1603～1604 年) 加藤清正は、画図塘（※現在の地図などでは「江津塘」となっているが、どちらか？「画図小学校」の校名あり）を作る。これにより 沼沢だった画図・御幸・田迎地区は美田となったが、秋津地区では、以後水害の常習地となり、惨禍に耐え難く集落 (東無田・中無田・西無田) こぞって秋津川右岸の台地に止む無く移住している。古老の話では、以来この地での加藤清正の評判は芳しいものではないと伝えられている。
※東無田村（上沼山津橋南側、万蔵堀辺り）→新しい東無田（現益城町島田「東無田八幡宮」辺）
中無田村（秋津村字「三官屋敷前」㊱辺り）は、字「上ノ丁」㉙「下の丁」辺りへ移住
下無田村（秋津村字「古屋敷」㊷辺り＝秋津レークタウン東側）は、字「宅地」⑲（東野中学校北側）辺りへ移住。「新村」と呼ばれ、現在の地名「秋津新町」につながる。

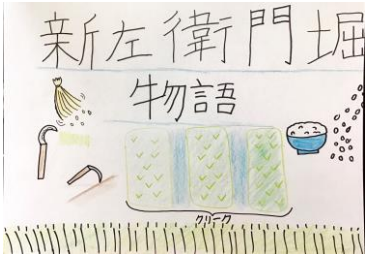
(3)細川忠利が入国(寛永 9 年・1632 年)した直後は、大きな作柄変動は無かったが寛永末年(1644 年)には大飢饉となり、その後も凶作年が多く、藩財政の悪化は元より、農民の暮らしが困難な事態が多く生じた。農民に対しては「生きぬよう、死なぬよう」 が藩の対応であり、逃散する農民も出ていた。
　秋津地区の歴史は、移住した三部落に象徴される苦しみや、幾多の水利事業・土地改良事業圃場整備等、水害の戦いに尽きると言っても過言ではない。この地区に 7 ケ所にも祀られている

水神信仰に、その願いが現れている。また、度重なる飢饉から乳幼児の死亡率が高く、地蔵菩薩に救済を求めるため、こ の地区には 17 ヶ所の地蔵菩薩が祀られている。
※参考：創作『古屋敷ものがたり』（「秋津レークタウン 30 年のあゆみ」2019 年 より）

(4) 昭和 29 年、秋津村は上益城郡から熊本市へ編入された。
そして、画図塘が出来て 376 年後の昭和 55 年(1980 年) 村民の宿願であった秋津地区圃場整備事業が着工となり、平成 6 年(1994 年) 15 年を掛けて日本一の美田が完成した。

・施工面積 186 ヘクタール (東京ドーム約 40 個分)
・事業費 約 36 億円　　※ 費用負担について
・受益戸数 336

完成後、あれ程難敵であった水害も発生しておらず、現在整然とした平和圃場 (はたけ) が見られる。しかし、先人達が如何に水害と戦って来たのか後輩の我々は決して忘れてはらないし、子孫へ語りつないで行かねばならない義務があると思う。



4）郷土を拓いた先人たち

◆しんじゃ堀（跡）（マップ64）、新左衛門の墓と記念碑（マップ62）

◆万蔵堀（跡）（マップ67）

◆裏井手（跡）（マップ68）

※秋津小学校４年「新左衛門物語」（紙芝居）

5） 圃場整備事業記念碑「豊穣」（マップ 69） 碑文より

本地域は熊本市東南部に位置し、緑川水系加勢川の支流・木山川と秋津川に挟まれた平坦な水田地帯である。 本地域の耕地は未整備のため、区画は不整形かつ狭小、道路も不完全な状態で、しかも多数のクリークが存在する低湿地帯であった。また一朝豪雨の際には、両河川の水位が上昇するため地区内の排水機能は低下し、しばしば湛水による被害を受けていた。

このような不利な地形的制約から農作業や導水路の維持管理に多くの労力を費やしていた。この為に労働生産性は極めて低く、また地域農業の振興を阻害していた。かかる生産条件を改善し、都市近郊の利点を生かした生産性の高い近代的農業の確立に、関係者一同千秋の思いをよせていた。

このため、生産基盤である農地の区画整理・用排水路・道路などの総合的な整備と分散した農地の集団化を行い併せて湛水被害の解消を図るため、排水対策を一体事業とした県営圃場整備事業の計画を3度目の試みにして樹立し、昭和55年度に着工。

以来15年間の歳月を経て平成6年度に完成したものである。

この間、農林省・九州農政局・熊本県・熊本市・益城町・土地改良区の顧問や歴代役職員・関係受益者のご尽力ならびに御協力に対して深甚の謝意を表すと共に、先駆者の偉業を称え、秋津飯野地区の豊かな農業の発展を記念し、ここに記念碑を建立する。

平成6年10月吉日　　秋津飯野土地改良区

概要１ 事業名　県営秋津地区圃場整備事業　　２ 事業主体 熊本県農政部

３ 事業費　3,558,000千円　　４ 施工期間 昭和55年度～平成6年度

５ 施工面積 186hea　　６ 受益戸数 336戸

6）熊本地震からの復興「秋津地区未来創造プロジェクト」

熊本地震（平成 28 年･2016 年４月）により、平成６年に完成した圃場は、給排水管の損壊などにより、稲作ができなくなった。復興にあたり「秋津地区未来創造プロジェクト」が組織され、創造的復興･･･大型機械が効率的に作業できるように複数の田を合わせ１枚の大きな田とする。そのことで、近代農業化、若手農業従事者が取り組みやすいなど、次の世代を見据えた取り組みに尽力された。

175町（≒1ha＝100m×100m）の田の換地、給排水施設などが復旧完了し、令和４年 10 月６日、熊本市長、県出身議員（代理）、工事関係者、農業関係者などの出席のもと秋津地区災害復旧事業竣工記念式典が行われた。

秋津公民館主催講座
「おもしろ 秋津（あさひば）学」（入門編）

令和４年
10月21日・11月４日

2. 熊本市の重要な水源地

1）熊本市の大きな水がめ秋津（熊本市の水道水の源）

・熊本市には地下水をくみ上げる井戸の数（水源地）が何本あるでしょうか？

→ ・約 100 本（平成 29 年度資料では 99 本）

・そのうちの８本が秋田水源地、10 本が沼山津水源地（合計 18 本 熊本市の約５分の１弱）

・取水能力としては、熊本市全体 316658 ㎥／日のうち、秋田・沼山津の合計 80300 ㎥／日となり、熊本市の約 25 パーセント（4 分の 1）の水をまかなっている。

平成 29 年度統計	井戸数（本）	取水能力（㎥／日）	熊本市全体にしめる割合（%）《井戸数・取水能力》
熊本市	**99**	**316658**	
秋田水源地	8	29700	
沼山津水源地	10	50600	
秋田+沼山津	**18**	**80300**	**井戸数 18%・取水能力 25%**

※熊本市で一番井戸数が多く取水能力が高いのは、健軍水源地（11 本・66600 ㎥／日）で、2 番目が沼山津水源地となる　　※参考「熊本市上下水道事業年報」

右「秋田水源地」 奥「飯田山」 左「沼山津配水場」

井戸（取水）

「中無田橋」 左・送水管

「野間橋」付近より。奥は特別養護老人ホーム「ハーモニー」

秋津公民館主催講座
「おもしろ 秋津（あさひば）学」（入門編）

令和４年
10月21日・11月４日

１．秋田・沼山津水源地

施設の看板「沼山津第○**水源井**」「秋田第○**水源井**」「秋田第６**水源地**」 ○…沼山津水源 ○…秋田水源

秋津公民館主催講座
「おもしろ 秋津（あさひば）学」（入門編）

令和４年
10月21日・11月４日

④熊本市東部の発展と戦争遺産（光と影）

1. 三菱重工業（株）熊本航空機製作所関連施設など（別紙）

2. 計画・着工・稼働・閉鎖・譲渡・その後・・・・証言を交え（別紙）

3. インタビュー映像（1945年８月９日　熊本から見えた「きのこ雲」）

⑤「横井小楠」・・・『送別の語』、世界平和、人権、民主主義

1. 地域の中の横井小楠

（1）校歌に見える小楠

秋津小学校　校歌

一　朝日ににおう　大阿蘇を
あおぐ瞳も　輝いて
・・
三　秋津の川に　影うつす
四時軒塾の　あと踏んで
さらに正しく　たくましく
よい子はえがく　理想郷
希望は高し　秋津校

桜木小学校　校歌

一　桜の花咲く　みどりの庭に
明日をになう・・・・
三　明日を拓いた小楠（横井小楠（よこいしょうなん））公に
平和を学ぶわれらの集い
学び合い　みがき合い

「拓く」（ひらく）の意味は
「未来を拓く（ひらく）」
「新たな道を拓く」

（2）秋津村が熊本市と合併される時に（『秋津村略史』昭和29年９月30日合併記念より）

ここに至って、我が秋津村はいよいよ熊本市と合併することに決定したのである。
つづいて二月五日に開いた議会に於いて次の事項が決議されて、これを熊本市長に提出することにした。

一、小楠先生遺跡
　1　旧宅建物一切永久に保護管理保存せられたきこと。
　2　宅地　墓地付属用地並に立木は永久に管理保存せられたきこと。
二、現在の役場庁舎
　秋津の中央公民館として現在の場所に存置せられたし。
三、市役所出張所の件
　本村と市との合併後は現在の役場庁舎に出張所を設け、秋津住民の利便をはかることに考慮せられたきこと。なお適当な時期に総合的の出張所を健軍終点付近に設けられたきこと
四、現在の中央公民館は部落公民館として存置せられたきこと。
五、電車敷設延長
　現在健軍町終点の線路を早急に秋津村沼山津まで延長せられたきこと。
　尚電車延長が早急に出来ない場合は、市営バスの運行を前記個所まで考慮せられた
六、小学校の位置は現在のままにせられたい。
七、中学校に関する件
　中学校は当分の間益城中学校組合を継続し湖東校以東に中学校建設を企画せらるる場合には、
　現秋津村の位置に設け、沼山津在住の児童通学の利便を考慮せられたい
八、役場職員の身分に関する件
　現在の秋津村役場職員現俸給（合併当時）を以て全員市に採用せられたきこと、なを職員の
　退職手当金及恩給組合関係の利権も其のまま継承せられたきこと
九、合併の時期
　財務処理のため十月一日を適当と思料せらるること
一〇、社会教育の振興
　公民館主事を設置し、部落公民館の活動を促進せられたい。
一一、現在の巡査部長派出所に、市警の巡査派出所を設けられたい。
一二、加勢川改修を期せられたい。
一三、土地改良事業の続行を要望します。
一四、現在の村道を市道にすること。
一五、農林関係の技術員を本村出張所に駐在せしめられたい。

以上の決議事項を携えて三月九日村長は議長同伴市役所を訪れ、熊本市長の手許に提出して諒解を求めた。其の後市とは暫く交渉は絶えていたが、七月に入って市側から吏員大挙して秋津村役場に来て、役場事務の内容を前後五日間に亘って、精密な調査が行はれた。此の結果によって熊本市は正式に秋津村編入を議するであろう。
次に初代村長から熊本市編入までの歴代村長の名を掲げよう。
歴代村長　就任

秋津村の最後の村長　富島末雄さんが、村の歴史を記録に残そうと執筆※当時各家庭に配布された模様。『豊穣』にも収録。

「１番目に記載」から想像できることは？

秋津公民館主催講座　　令和４年

「おもしろ 秋津（あさひば）学」（入門編）　　10月21日・11月４日

2. 様々な施策・提案 （たくさんの提案、人物に影響を与えた小楠の思想）

（1）『国是三論』（福井藩の財政再建、「富国論・強兵論・士道論」） 1860年

（2）『国是七条』 ⇒由利公正『議事之体大意』（ぎじのていたいい）⇒ 『五箇条の御誓文』

『国是七条』（1862年） 政治総裁職 松平春嶽のブレーンとして、幕藩改革の提案

1. 大将軍上洛して列世の無礼を謝せ。

【将軍は、京へ行き、これまでの徳川家中心の政治を、朝廷に謝る。】

小楠は、徳川幕閣政治を、徳川家のための「私」の政治である、これを、「公共の政」に改めるべきである。と主張した。「私」の政治を、「公共の政」に変えるために、先ず、これまでの「私」の政治を、天下に謝るべきである。このために、将軍は京へ赴き朝廷に謝るべきとした。

1. 諸侯の参勤を止めて述職となせ。

【参勤交代制をやめて、各大名は、将軍に各藩の情況を報告する制度に改める。】

参勤交代制は、徳川幕閣政治を維持するための中核であったが、幕末になると制度疲労を起こし、各藩にとっては財政的な負担が大きく、松平春嶽をはじめ各大名より、改革の声が出始めていた。小楠は、「私」の政治の象徴としての参勤交代を廃止し、大名の役割を、「述職」（報告）とすることで、「公共の政」へ政治の体制の変革を図った。また、参勤交代に費やす莫大な費用を、外国から国土を守るための財源とすることとした。

1. 諸侯の室家を帰せ。

【各大名の奥方を、江戸へ常駐させず、各藩へ帰す。】

大名の奥方は、いわば人質のようにして、江戸常駐が義務づけられていた。これも、「私」の政治を守る制度であり、その為の維持費の負担も、各藩にとっては莫大なものであった。参勤交代制同様に、この制度の変革を図った。　※⇒「新屋敷」の地名。熊本へ帰った関係者の居住の新設

1. 外様・譜代にかぎらず賢をえらびて政官となせ。

【政治を司る地位には、これまでの伝統にこだわらず、優秀な人材の登用を行う。】

徳川幕閣政治は、徳川家のまわりの人々によって政治が行われてきた。外国から条約の締結を要求される時代には、徳川家を守るという事を第一義に考える政治は通用しない。これまでの慣例にとらわれず、優秀な人材を登用することで、「私」の政治から「公共の政」へ改める事によって、諸外国との交易も行えるとした。

1. 大いに言路をひらき天下とともに公共の政をなせ。

【密室で、一部の地位の人だけで決めていく政治を改め、多くの人々の意見を集約する政治を行う。】

秋津公民館主催講座
「おもしろ 秋津（あさひば）学」（入門編）

令和４年
10月21日・11月４日

徳川幕閣政治は、一部の地位の人々による専制政治であった。「日米和親条約」にしても、井伊大老を中心に、徳川幕閣政治を守るにはしかたがないという考えで、一部の人々の意見のみで、条約締結を行った。小楠は、国の大事な方針は、諸大名を集めて議論をし、皆の納得の上で決めていくべきだ、とした。徳川家の「私」の政治から、「公共の政」への転換。徳川家の「専制政治」から、「共和政治」への転換を図った。

1.海軍をおこし兵威を強くせよ。

【外国の侵攻を防ぎ、日本を守るには海軍の増強が必要。】

米・露・英などの国がアジアへ押し寄せ、インド・中国を支配下に置き、日本に対しても、一方的な条件で国交の要求をしてきている中で、国を守るには、海軍の増強が必要であるとした。しかし、徳川幕府のみでは海軍を増強するための財政力はないために、各藩との協力してその体制を作る必要があるとした。　※自分の藩の利益だけに固執する時ではない、広く世界へ目を向ける必要性

1.相対交易をやめ官交易となせ。

【外国との貿易を、国の管理下に置き、国の財政基盤を強化する。】

外国のいいなりになる、自由貿易はせずに、貿易は当面は国の管理下に置くべきだとした。越前藩では、藩の管理下での貿易「物産総会所」で、藩が莫大な利益を得た。これを手本とし、国も貿易を管理下に置き利益を得ることで、海軍増強の費用の捻出を行うこととした。 ※有道無道の国

（3）『五箇条の御誓文』（1868年）「広く会議を興し、万機公論に決すべし」

1.政治を行う際に多くの意見を求めること、政治に関して、全てのことを会議で話し合って決める。

2.身分の上下に関わらず、心を一つにして国家を治め整えていく。

3.役人・武士・庶民まで身分の違いを超えて、それぞれの志を実現できるような社会を目指す。

4.古くからの悪い習慣を無くして、世界共通の正しい道理（国際法）に従うこと。

5.欧米の進んだ文明（智識）を求めて、国家を発展させること。

※小楠の『国是七条』と比べて見えてくることは？

秋津公民館主催講座
「おもしろ 秋津（あさひば）学」（入門編）

令和４年
10月21日･11月４日

3.『送別の語』（小楠の思想の集大成）

堯舜孔子(ぎょうしゅんこうし)の道を明らかにし／明堯舜孔子之道

西洋器械の術を盡(つ)くす／尽西洋器械之術

何ぞ富國に止(とど)まらん、何ぞ強兵に止まらん／何止富國何止強兵

大義を四海(しかい)に布(し)かんのみ／布大義四海而已

心に逆らうこと有るも人を尤(とが)むること勿(なか)れ／有逆於心勿尤人

人を尤むれば徳を損ず／尤人損徳

為さんと欲する所有るも心に正(あて)にする勿れ／有所欲爲勿正心

心を正にすれば事を破る／正心破事

※慶応２年（1866年）、甥の左平太･太平がアメリカ留学（兄弟は日本政府最初の官費留学生）する際に贈った。

（要約・前半）

これからの日本は、古代中国の聖天子といわれる堯・舜・孔子が行った道徳的政治を基本に据えて、西洋の科学文化を積極的に取り入れなければならない。そして、単に富国強兵で終わるだけでなく、日本が先頭に立って正義人道を世界に広め、真の世界平和を作らなければならない。

4. 外国人（明治政府にやとわれた「お雇い外国人」）からの評価

『ミカド』 グリフィス著 より

「・・・・キリスト教徒横井平四郎（小楠）は、たぶんこの国ではじめて、これらの人々（エタ･ヒニン）の地位を引き上げ、市民権を認めるべきことを弁じた政治家であった。彼は、「夷賊に同心」したというので、京都でローニンに暗殺（1969年）された。当時奴隷よりも低い状態にあった信教と賤民との二つの自由を提案して、24時間とたたないうちのことである。彼の死は無意味ではなかった。1871年10月、次のごとき宣言が政府から諸府県庁に発せられ、日本全国に公表された。・・・・」

（以下、いわゆる「解放令」が続く･･･）※小楠の死後「解放令」本来のねらいから通りには進まなかった。

※「キリスト教横井小楠」と記載がありますが、小楠はキリスト教徒ではありませんが「信教の自由」を主張していました。

※横井小楠は、リンカーンに匹敵する人物・・・リンカーン（アメリカ第16代大統領） といえば、「人民の、人民による、人民のための政治」を思い出しますが、横井小楠も、いろんなところで、徳川の「私の政治」ではなく、「公の政治」＝世襲ではなく身分にとらわれず優秀な人物が政治をおこなうことを唱えていました。また、リンカーンが、南北戦争で「奴隷解放宣言」を出したように、小楠も身分制度が色濃く残るあの時代に、身分制に異を唱えていました（賤民の廃止・時代背景を考えるとこんなことを言えるのがすごい）。くしくも、両者とも志半ばで暗殺されます。リンカーン：1865年、横井小楠：1869年。（現在も続く差別・人種差別、部落差別・・・・）

維新時には多くの有能な人物が個々の力を発揮し活躍した。小楠が秀でているのは、「構想力」。幕府に代わる新しい日本の姿かたちはどうあるべきか、そのグランドデザインを提示できた。ゆえに暗殺され明治政府の方向性に暗雲が。

5. 横井小楠の思想を受け継ぐ（日本中で活躍）

（1）「横井小楠関係家系図」、「横井小楠の肥後熊本藩門弟（弟子・孫弟子）関係図」 別紙

（2）矢嶋家の勇婦「四賢婦人」（女子教育・女性の地位向上へ）

※姉妹は、小楠の教えを受けた兄源助（小楠の高弟）の話を聞き、感化されたと思われる（受洗・キリスト教の普遍的な人間愛）。平等、人権、女子教育、女性の地位向上へ、熊本、全国で活躍。

◆順子（三女）竹崎順子・・・小楠の門弟：竹崎律次郎の妻。後半生は女子教育に尽力。熊本女学校校長（※後の「大江女学校」・・・「フェイス女学院高等学校」・・・「開新学園」に合併・廃校）

◆久子（四女）徳富久子・・・徳富一敬（小楠の高弟）の妻。徳富蘇峰、蘆花の母。熊本女学校設立へ。

◆勝子・楫子（六女）・・・矢嶋楫子（かじ子）

・初代「女子学院」院長　※2020年に創立150周年。日本において女子教育の黎明期を担った学校の1つ（東京都千代田区）

・初代「日本基督教婦人矯風会」会頭 ※婦人禁酒、男女平等、一夫一婦制、廃娼

・高齢で３度の洋行

◎73歳・・・明治39年（1906年）第7回万国矯風会ボストン大会参加。ワシントンでルーズベルト大統領に面会（日露戦争の講和について謝辞）

◎87歳・・・大正9年（1920年）第10回万国矯風会ロンドン大会参加

◎88歳・・・大正10年（1921年）ワシントン会議（平和軍縮会議）大会へ。ハーディング大統領に面会。手紙に「・・・・此度の大会を以て、世界の戦争史の最後の幕を閉づるものであるように、祈っております・・・」

（※ワシントン会議の内容については、日本にとって不利なことも決まっていったようです。）

◆つせ子（五女）・・・横井小楠の妻　献身的に横井家を支える（黙って忍び通す）

長男時雄がキリスト教に傾くのを、懐刀で自害する覚悟で改心をせまる。「父君の霊になんとお詫びを申されよう」。後に時雄受洗。また、つせ子も他の姉妹と同様受洗。

（3）その他（直接つながりがない人物もいますが、小楠の「民のため」の思想が根底に流れているような）

◆内藤　泰吉・・・熊本県南関町生まれ。小楠門弟。古城（ふるしろ）医学校（※熊大医学部の源流）の開設に尽力。小楠は、天然痘予防に種痘を広めるなど、西洋医学に関心を持ち、内藤泰吉ら医師の育成に努めた。明治4年、内藤泰吉は、寺倉秋堤らと洋医学を導入するために、古城医学校を設立した。古城医学校で学んだ医師の中に、破傷風菌の研究で世界的に有名な、北里柴三郎がいる。・（内藤　泰吉の子）内藤濯（あろう）・・・フランス文学『星の王子さま』の訳者

◆徳富蘇峰・徳富蘆花（小楠の高弟　徳富一敬と矢嶋久子の子）

◆ジェーンズ（教師）・・・小楠の甥　横井大平と野々口為志は、熊本洋学校設立に尽力

・ジェーンズも民衆の生活が豊かになるように、農業の効率化、食生活の改善につとめる

・熊本洋学校（日本初の男女共学）、出身者は全国で活躍。同志社大学の学長なども。

◆高橋公園「維新群像」

◎横井小楠の生誕190年、没後130年を記念して2000年に建立。

◎銅像向かって左から、
坂本龍馬・勝海舟・横井小楠・松平春嶽・細川護久
竹崎律次郎（茶道／私塾、洋学校で徳富蘇峰・小崎弘道・海老名弾正らを育成。子孫に木下順二）・内藤泰吉（「海国図誌」小楠と読破、古城医学校）・嘉悦氏房（広取英学校、九州鉄道の設立発起人）・徳富一敬・長野濬平（熊本製糸会社を創立・近代養蚕業の開祖）・山田武甫（養蚕・政治家）

秋津公民館主催講座

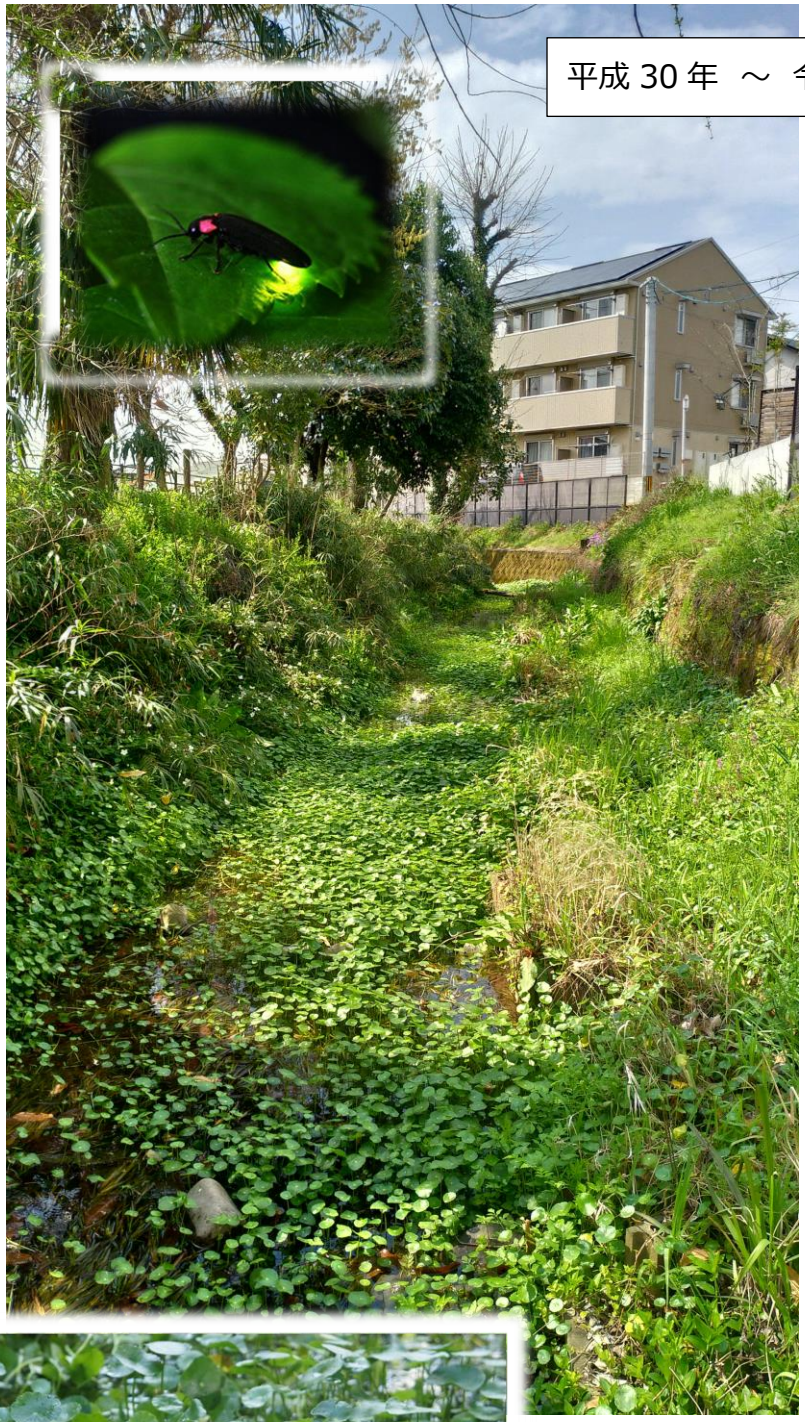
「おもしろ 秋津（あさひば）学」（入門編）

令和４年
10月21日･11月４日

※ホタルが飛ぶところが近くにあるなんて知りませんでした。また、外来植物のことを知り、ほっておけなくなりました。
地域の課題を解決してくのが公民館の役割の一つであり、取り組みスタート。しかし･･･住民参加の広がりまでは･･･▲

⑥「環境」･･･ホタルが舞う環境が残る住宅街「秋津」

1. 通称「ほたる川」････鶯川、河川改修前の流れの一部。100%地下水。



平成30年 ～ 令和４年の活動

平成18年頃の活動（～平成26年）

外来植物「ウチワゼニクサ」

←幼虫･12月ごろ 約3cm
「カワニナ」を捕食。成虫は？

秋津公民館主催講座

「おもしろ 秋津（あさひば）学」（入門編）

令和４年
10月21日･11月４日

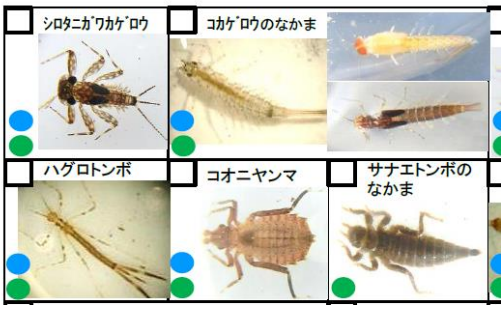
外来植物「ウチワゼニクサ」･･･特定外来生物の「ブラジルチドメグサ」の仲間で、繁殖力旺盛。特定外来生物は、①輸入 ②飼養や運搬 ③野外に放つことが原則として禁止される･･･が、「ウチワゼニクサ」は指定されておらず、ホームセンターで観賞用の水草として販売「ウォーターマッシュルーム」などの名前で販売されている。

繁殖力が強く、他の水生生物を覆いつくして衰退させる、通水阻害･河川氾濫などを引き起こすなどの被害発生。（秋津川もひどい状態）

ほたる川

令和３年 **7月14日**

豊かな生態環境（生物多様性）



活動：公民館だより11月号より･･･地域の活動としての広がりに課題

～ 秋津の素敵を未来へつなぐ **ボランティア活動** ～

「ほたる川」清掃活動 ＆「水生生物」観察会

【とき】１２月４日（日）午前９時半～１１時半
【場所】通称「ほたる川」（秋津中央公園南側）
【対象】 どなたでも（小学生以下は保護者同伴）
【持ち物】●作業手袋／（お持ちの方）鎌、剪定ばさみ、のこ、熊手

「ホタルが舞う自然環境」と「住宅街としての環境」の**バランス**を保つために、周辺の**草刈りなどの環境整備**をします。その後、水生生物観察。たくさんの小さな生き物に感動！運が良ければ**ホタルの幼虫**を見つけることができるかもしれません。

【申込】 当日直接ご参加でも構いませんが、よろしければ事前にご連絡ください。（場所などの確認をします）

秋津公民館主催講座
「おもしろ 秋津（あさひば）学」（入門編）

令和４年
10月21日･11月４日

⑦「その他」･･･伝説･史伝･人物

1．中無田神社に残る「弾の跡」･･･「西南戦争と秋田村」

3･西南戦争と秋田村

明治10年4月14日と思われる。御船方面の戦いで敗れた薩軍の一部が、橋を壊しながら木山へ集結する途中、中無田を通過するとき、村の世話人三藤孫四郎らに、食糧の提供や道案内を強要する。賊軍への協力を躊躇していると、中無田神社に向けて実弾を発射して、村民を震え上がらせ、言うことを聞かないと火を放ち村中を焼き払うと脅されて協力させられる。

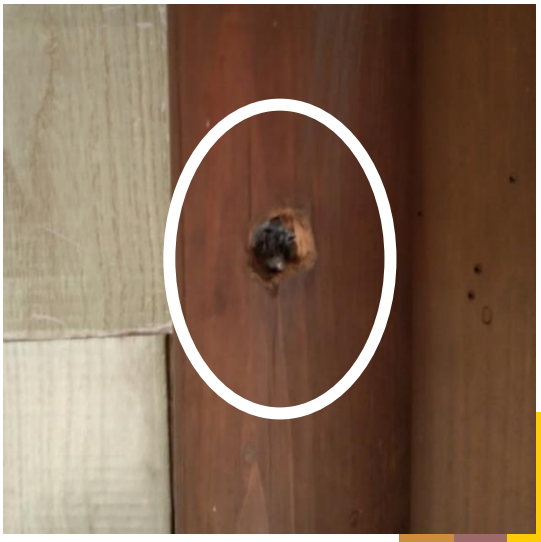
「現に中無田神社の神殿内の柱には所謂西郷弾が打ち込まれたままになっている」

村では戦場になったら大変な事になるので、女子供を、吉住氏宅裏の孟宗竹林内の、元鶯城跡の窪地に（当時は相当深かったそうな）猫伏を被って避難させた。なかには身重の婦人がいて避難中にお産があったりして、村中大変な騒ぎであった。（注：当時木山に行く道は、戸島往還より花立往還へ出て広崎の猫伏石を通って木山に行く道しかなかった。現木山県道は明治33年完成。）

幸い薩軍は通過しただけであったので、戦場にはならずに済んだが、それを追って政府軍が通過するときの対応が又大変であった。

4月15日午後3時頃、熊本鎮台兵2名が三藤孫四郎を間島橋へ呼び出し、間もなく政府軍が通過するので薩軍が壊した橋3ケ所を1時間以内に修理するように取り計らえとの命令、無理な話だか命令に従うほかはない。大急ぎで西無田用掛り矢田和三郎、下無田（通称新村）用掛り野田伝太に連絡して、大至急人夫を集め、有り合わせの板や材料を持ち寄り応急修理した。

なお矢田和三郎は前日14日にも六嘉方面から薩軍を追った政府軍を橋が壊れて渡れないので川船で渡したり、道案内等したりしている。



秋津公民館主催講座
「おもしろ 秋津（あさひば）学」（入門編）

令和４年
10月21日・11月４日

4月21日薩軍敗走後、村へ政府軍進入に出迎え、道案内、下無田には22日迄政府軍滞陣のため、宿所の手配、手伝い人夫の手配に追われている。

4月24日より政府軍衆が通過する際、又薩軍が焼き落とした橋の修理、渡し船の手配、乗馬の手配等。又5月7日大津方面から隈庄への移動の政府軍の大砲等は橋が壊れて渡れないので、積船の手配や手伝い人夫の手配等々。又沼山津村では、熊本鎮台兵の馬水（益城町馬水）・木山（益城町木山）・御船（御船町）通過の際には数百名の手伝い人夫を出して協力している。

広崎村（益城町広崎）では小倉鎮台兵が進入の際には、熊本往還筋の（地元では花立往還と言っている）猫伏石と言う所で焚き出しをしたり、政府軍数千人の道案内、食糧、物品の輸送などに、多数の人夫を動員して手伝っている。

木山に集結した薩軍・党薩熊本隊は4月20日、21日船野山（益城町308メートル）・飯田山（御船町431メートル）周辺の激戦に敗れ、矢部方面へ後退して人吉方面へと敗走していく。

西南戦争が終わった後、戦後処理というか、政府軍に協力した者にはなにがしかの日当が支払われた模様で、協力した内容を書いた文書の写しが残っている。文書の内容が古文で難しくて分かりにくいが、次のような文書がある。

中無田では「賊徒乱入之際出夫周旋等」と薩軍が通過の際に脅されてやむを得ず協力したのだったが、賊軍の逃亡の手助けをしたと、賊軍協力の名目で日当の請求を却下されている。

戸長吉田泰造（当時は官選戸長）が再度日当下げ渡し願を、熊本権令富岡敬明殿宛に、明治11年3月26日に出しているが、 それに対して「・・尽力致候儀ハ人民ノ義務ト相心得夫ニ説諭致可依而書面却下候事」と明治11年4月2日 熊本権令富岡敬明からの却下の書面である。村ではがっかりである。婦女子や村を戦火から守るために、薩軍から脅されて協力しただけだったのに。村では政府軍のために道案内、橋の修理、船馬の周旋、輸送の手伝い等に人夫の動員、宿泊の斡旋等々莫大な出費になっていた。

戸長や用掛など当時の村の世話役達が、県と協力した多数の村民の間に立って非常に苦慮された事が窺われる。

注：付図「西南戦争関係図」参照 ※←略
参考文献 三藤家文書 （語りべ学習会 小田邦秀）

秋津公民館主催講座
「おもしろ 秋津（あさひば）学」（入門編）

令和４年
10月21日･11月４日

2. 三藤孫四郎と秋田小学校建設

三藤孫四郎には、西南戦争前後の苦慮の外にもう一つ家運が傾くという大きな世話事があった。

村に不学の戸なく、家に不学の人がないようにと明治5年（1872）に学制が布かれた。当時各地に所謂人民共立学校が設立された。秋田小学校を設立する事になり、中無田・西無田・下無田（通称新村と言っていた）の住民が資金を出し合って建てる事になるが、当時の貧しい農村では一度に出せる金ではないので、差し当たりその時の世話役だった三藤孫四郎（明治13年戸長民選制になっての初代戸長となる）の田畑を担保にして金を借り、返済は中無田・西無田・下無田の各住民が年賦で償還する事にして、敷地は孫四郎所有の字野間に建てることになつた。

設立当初の生徒は男子41名、女子33名で教員2名、番人給仕人などの人材・設備・教材も追々整いつつあり、資金返済の方も予定通り目途がついて回収しかかったが、運の悪いことに数年ならずして火災にあい学校が全焼してしまった。 学校が無くなったので、その後の返済資金の回収が出来なくなり、孫四郎個人の借金だけが残ってしまった。金利だけが雪だるまの様に膨らんでいく。学校はその後民家の空き家を、転々と借り細々と続けられていた。

長男清三は先代から交流のあった沼山津の彌富家に、若いときから勉強かたがたよく遊びに行っていた。清三が成人したころ彌富家の当主から「お前の家の財産がどうなっているのか」と尋ねられ、何も知らない清三がきょとんとしていると、「お前とこの田畑は秋田小学校設立の時の資金借用のため、みんな担保に入っていて、このままだと財産は借金のためみんな無くなってしまう」と聞かされ、愕然とした。孫四郎は秋田小学校設立資金に自分の資産を担保に借金していることを子供に一口も言っていなかった。 そう言われてみると思い当たる節があった。農家では米麦粟大小豆等収穫したら、俵入れして蔵か住居の土間に積み、しばし眺めながら収穫の喜びを感じつつ、時期をみて販売していた。

しかし三藤家では事情が違っていた。商人達が（ひょうもん「俵物」買いと言っていた）俵入れが済むのを待っていて、その場でかつがつ持っていってしまう。少しでも金利を減らすためには、そうでもしなければ仕方がなかったのである。

当時アメリカでは所謂西へ西へと西部開発ブームで、道路・鉄道等の建設工事に大量の労働者が必要で世界各地から労働者が集まっていた。日本からも多数の出稼者が行ったのもこの時であった。清三も現金を得るにはこれしかないと、結婚年頃を過ぎつつあったにもかまわずに渡米して、働きに働いた。稼いだ金を送金して、「今度はどこの田圃を請け返せ、今度は何処の田、今度は何処の畑」と次々に借金を返し、全部の田畑の請け返しが終わってから帰国した。

当時のアメリカ帰りは、大金を持ち帰り豪邸を建て悠々自適の暮らしを送るのが普通であったが、清三はそれどころではなかった。それからが我が家の再建に取り組まねばならなかった。その超人的な努力が実を結び現在にいたっている。

人一倍小柄で、ものしずかな清三のどこにそんなパワーが潜んでいたのかと全く驚嘆するほかはない。　参考文献 三藤家文書 （語りべ学習会 小田邦秀）

秋津公民館主催講座
「おもしろ 秋津（あさひば）学」（入門編）

令和４年
10月21日・11月４日

3. かみだりょうさんの石油堀り　※「あさひば史跡・文化財マップ」 50

上田龍三郎・通称かみだりょうさんは、沼山津の中でも、指折りの資産家で、大正13年（1924）頃、一時村長もしておられた。 大柄で色白な男前で、相当な道楽者でもあったようで、昭和初期頃、夏の頃になると、流行のカンカン帽をかぶり、絽の着物を涼しく羽織りステッキをつきながら闊歩する。煙草は当時高級品の「敷島」というのを、一口か二口吸っては捨て，又新しい煙草に火をつけるというような贅沢な生活をして、当時まだ誰も考えもつかない、運転手付きのサイドカーを乗り回しておられた。

田植え時になると、木山川（現秋津川）は水田用水、取水のために堰をかけ、かなり水位が上がり流れが淀み、ダムのようになっていた。 夏の頃になると、時々水面に油のような物が浮いたように見えることがあった。動植物性の油か、鉱物性の油か、または当時稲の害虫ウンカの駆除に油を使っていたのが、たまたま流れ込んだのか、何だかわからないが、とにかく浮き油という現象が時々見られることがあった。誰が言いだしたか知らないが、この辺の地下には石油があるのではないかという、突飛な噂話が流れた。 道楽者で、かなり山気のある、かみだりょうさんは、もし石油を堀りあてたら大当たりだとばかり、掘削を試みることにした。

昭和初年代の頃である。当時は動力がなかったので、足踏み式の突き棒で、数人の人が交代で作業をしていた。地層が土砂の所は堀り易いが、岩盤に当たると、なかなか掘れない。高価なダイヤモンド刃の付いた突き棒で掘るが作業は一向に捗らない、かれこれ1年近くかかって、22・3間（約40メートル）も掘っただろうか。一向に石油の出そうな気配はない。作業するほうも、いい加減疲れだす。期待していた村人も、石油は出んぞう（伝造）と、作業員の名をとりからかいだす。

とうとう石油は出なかったが、大量の水が噴出した。他にも益城町の福富にも掘ったが、これも水が出た。又秋田の野間にも掘ってみたが、此処では水も出なかった。石油掘削には失敗したが、怪我の功名というか、大量に噴出した水は現県道小池竜田線脇の水路が清流となり、所謂堂ん前の流れとなって、周辺の人達の生活用水、洗い物や井戸端会議ならぬ川端会議等の交流の場にもなっていた。 一方上田家は井戸堀りの費用が嵩み、又道楽も過ぎて家運が傾き、家産を整理して、何処かに越されたそうである。

この水は当時沼山津農家の主要農産物の一つであった大根の洗い場として重要な役割を果していた。上流から下流までの水路脇に、真っ白に洗われた大量の大根がうず高く積み並べられた様子は全く壮観であった。また貴重な水は、水不足の水田の用水として、木山川（現秋津川）を鉄管のサイホンを通して、利用された。昭和60年（1985）圃場整備事業で用水ポンプが稼働するまで約30町歩の水田を潤していた。 現在は県道が拡張され、水路は蓋で覆われ、又水位が下がり水も出なくなり、その役割が終わったが、沼山津には計り知れない恩恵をもたらしてきた。その恩恵に感謝して地元では、1町内公民館敷地内に、「水神」として記念碑を建て、その功績を顕彰している。

注：これは泉秀晴氏・福島新治氏・三藤愛子氏のお話を元にして書いたものである

（語りべ学習会　小田邦秀）

4. 熊本市の発展の基礎を作った「高橋守雄」（秋津小学校出身）

滋賀・長野県知事、第七代熊本市長、熊本商科大学学長・理事長

熊本市発展の基礎をつくった高橋守雄

熊本市役所近くの坪井川沿いの公園を、高橋公園といいます。熊本市名誉市民の一人である第7代の熊本市長 高橋守雄の名前から付けられたものです。では、公園の名前になっている高橋守雄とはどんな市長だったのでしょうか。そして、どんなことをした人物だったのでしょうか。

「三大事業」の成功

守雄は、明治16年（1883）に上益城郡矢部町に生まれ、秋津小学校を明治25年（1892）に卒業しました。大学を卒業して、東京で警視庁の役人になり、大正12年（1923）に39才という若さで熊本市長になりました。今でも高橋守雄市長といえば、大正の「三大事業」で有名な市長と言われます。では、「三大事業」とは何でしょうか。

それは、「熊本市営の電車を走らせたこと」・「各家庭に水道を引いたこと」・「市の真ん中にあった軍隊を別の場所に移したこと」です。実は、熊本市が「大熊本市」として発展したのは、この三大事業を完成させたことによるといわれています。守雄が市長になる前の熊本市は、周りの町や村といっしょになって、これから大きく生まれ変わろうとしているときでした。市長になった守雄は、さっそく市民生活の安定と向上のため、三大事業の仕事に全力で取り組み、次の年の大正13年（1924）に見事にやりとげたのでした。その他にも、守雄は鉄筋3階建ての熊本市役所を完成させ、水前寺競技場の建設にも取りかかりました。市長としてわずか3年半の間に、これだけの仕事をやりとげた守雄は、熊本市発展の基礎をつくった生みの親といわれています。

熊本市が電車を走らせる

みなさんは、熊本市営の路面電車がいつごろ出来たか知っていますか。今のような市営の電車が走り始めたのは、大正13年（1924）の8月1日からです。それまでは、熊本市内を軽便鉄道が走り、一部では電車も走っていました。しかし、経営がむずかしい会社もでてきました。そこで、市民の間から「ぜひ、市のほうで電車を走らせてほしい。」という願いが出てきました。守雄は、都市づくりのためには、市民の生活が便利になることが一番だと考えて、路面電車を市営の事業として経営することに決めました。

はじめは、「熊本駅～浄行寺」間と「水道町～水前寺」間だけを走らせました。白川を渡る電車のために新しくつくられたのが、今の大甲橋です。工事の記録では、「はば8間（約14・4㍍）、長さ40間（約72㍍）の鉄筋コンクリートづくり、費用は10万30円（当時・今のお金の値打ちに直すと、約2億円位に当たる）」だったそうです。15台でスタートした電車は、待ち望んでいた市民に大歓迎され、たいへん人気でした。満員で乗れない客も多かったため、「お急ぎの方はどうぞお歩き下さい」が、はやり言葉になったほどでした。その結果、すぐにまた新しく3台の電車が走るようになったそうです。

しかし、すべてがよいことばかりではありませんでした。電車の登場によって、人力車を引く人の仕事がなくなったのです。そこで、守雄は市議会と相談して、人力車を引く人たちへ、市からお金を出すことに決めました。仕事がなくなった人たちを助けるために、お金を出したことは、全国的にも例がありませんでした。このような守雄の努力によって誕生した市電は、熊本市のシンボルとして、現在まで走り続けているのです。

上水道ができる

「水の都」とよばれる熊本市には、昔から多くの地下水がありました。しかし、明治45年（1912）ごろは、熊本市内7135戸の井戸のうち飲料水として使えるものは、全体の約65パーセントだけでした。そのうえ、下水道も整っていなかったので、市民から「ぜひとも、早く市全体に水道を整えてほしい。」という声があがりました。しかし、多くのお金がかかることや、水が足りなくなることを心配する農民の反対運動があって、そのままになっていました。

そこで、守雄は水道の建設は、都市に住む市民のためには欠かせない仕事であると考えました。そして、八景水谷に井戸をほってくみ上げた水を、一度立田山にポンプで上げて流すという方法を提案しました。この方法が市民にも受け入れられ、長い間市民が望んでいた水道の計画が、ようやく進められることになりました。大正13年（1924）11月、水道が完成し、通水式が行われました。これで、市民は安心して水を飲めるようになり、病気も減って、豊かな生活ができるようになりました。

教育者として活躍

熊本市長をやめた守雄は、国の役人にもどりました。そして戦後は、昭和21年（1946）に熊本語学専門学校の校長となり、熊本の私立学校の教育に当たりました。あるとき、守雄はこれまでの専門学校を短期大学にするために、東京の役所をかけまわっていました。その途中、すりにあわないようにわざわざ混雑していない電車を選んで乗ったのですが、何度もすられてしまいました。「警察官だった人が、すりにあうなんて」と、周りの人たちも不思議がりました。そのときの守雄は、すりにも気付かないほど熱心に、短期大学のことを考えていたのでしょう。「誠意と努力で」というのが、守雄のモットーでした。このような守雄の働きかけによって、熊本語学専門学校は、熊本短期大学になりました。昭和27年（1952）には、立田山にあった校舎を大江に移し、昭和29年（1954）には、熊本商科大学をつくって、学長・理事長として教育や経営に当たりました。

守雄の人がらを知る手がかりとして、他にもこんなエピソードが残っています。昭和28年（1953）の「六・二六水害」のとき、子飼や渡鹿付近で73世帯（293人）が住む家を流されてこまっていました。そこで守雄は、住民を大学の校舎に避難させて世話をしました。にぎりめしを配って歩き、衣類をおくったり、週に一度は校内で映画を上映したりもしました。

このような数々の人間味あふれる行動力で、市民のため生涯をつくした守雄でした。守雄が市長のときにできた市役所の玄関は、最初に紹介した高橋公園に、今でも大切に保存されています。

（熊本市教育委員会発行 郷土読本 ふるさとくまもとの人々）

※最も大きな課題であった（市の最中央部を占有していた）歩兵第二十三連隊の移転問題については、「本市商工業の発展を阻む」ということから、当時の市長・高橋守雄が陸軍省や大蔵省など関係機関と交渉を重ねた上、渡鹿への移転を実現させた。

（渡鹿）･･･産業道路から熊本学園大学付属高等学校への入口には「歩兵第十三聯隊」の赤レンガの営門門柱が残されている？

https://eco-and-health.at.webry.info/201803/article_2.html

「軍都」の痕跡探し（2018年03月11日）

http://shinkokunippon.blog122.fc2.com/blog-entry-1017.html

第六師團関連の練兵場、射撃場、演習場

※ハンセン病患者の子弟の通学問題でこじれた龍田寮事件（黒髪校事件ともいう）を解決するために、ハンセン病患者の子弟３人を自宅に引き取り、問題の解決に大いに貢献。